

自転車の正しい乗り方教えます

上志佐小学校の児童4人が、交通安全子ども自転車長崎県大会に出場。県内各市町から代表校が出場し、安全な自転車走行の技術と交通安全の知識を競いました。



Interview 松浦市立上志佐小学校

※写真前列の左から6年生の

岡田祐之介くん、萩原和歩さん、米本巨成くん、松崎結可さん

交通安全子ども自転車長崎県大会は、子どもたちの交通安全知識の向上と交通事故防止を目的に毎年開催されています。37回目となる今年の大会には、県内の各市町を代表して22校が出場。自転車の「安全・技能走行テスト」と「学科テスト」によって順位を競い合い、上志佐小学校は見事！第2位の好成績を収めました。また、萩原さんは、個人でも第4位と健闘しています。出場した6年生の4人に大会の感想などを聞きました。

この人に
LOSE UP!
まつうら
キラリ
輝人

Q 大会に出場した感想を聞かせてください

A みんなと一緒に楽しく参加できたことが一番良かったです。最初は不安で緊張したけど、一生懸命に頑張りました。実技ではバランスを取るのが難しく、少し失敗しましたが、2位になれてすごく嬉しかったです。

Q どのくらい練習しましたか？

A 5月から練習を始めました。交通安全指導員のお姉さんから教えてもらいながら、大会までの約2カ月半、学校が終わってから午後6時ごろまで毎日練習しました。

Q 大会に出場して学んだことは？

A 大会までの練習で、知らないうちに、危ない自転車の乗り方をしていたことが分かりました。これからは、教えてもらったことをきちんと守って、自転車に乗るようになりたいと思います。

Q 自転車に乗る人たちへ一言お願いします

A 自転車も車と同じように危ない運転をすると大きな事故につながります。歩行者などに対して思いやりのあるやさしい運転をお願いします。



▲大会の結果報告のため、8月7日に市役所を訪れたときの様子。出場した4人の児童を代表して、松崎結可さんが友広市長へ報告を行いました。

新しいALT クリスティー・マツカワ先生を紹介します！



クリスティー・マツカワ
Christie Matsukawa

アメリカ出身

皆さん、はじめまして。私の名前はクリスティー・マツカワです。私はJETプログラムを通して松浦市に赴任してきたALTです。松浦市の皆さんとお知り合いになれることを楽しみにしています。では、自己紹介をします。

私は、日系3世のアメリカ人で、カリフォルニア州のロサンゼルスに23年間住んでいました。カリフォルニア大学では東アジア学を専攻しました。趣味は、サッカー、芸術、工芸、小説を書くこと、ボランティア活動です。私は、英語を学ぶことはただ単に言語を学ぶのではなく、文化を理解することだと思うので、それを理解するためのお手

伝いがしたくてALTになることを決めました。

また、私の家族の歴史を考えると、私は、アメリカと日本の文化のちょうど中間にいます。母は、千葉県から移民してきた日系1世のアメリカ人で、父は、ハワイ生まれ、ロサンゼルス育ちのアメリカ人です。父の両親はそれぞれ日本の北海道と広島出身です。私にとって今回で4回目の日本ということになりますが、松浦と九州は初めてなので、ここでたくさんのことを学べることを楽しみにしています。

ALTとしての目標はアメリカの文化を紹介し、楽しんで学んでいただけるように最善を尽くすことです。「素晴らしい教師は、素晴らしい生徒である」と思います。私自身も日本の文化、特に松浦の文化を学びたいと思いますので、地域の皆さんの中に積極的に入っていきたく思います。

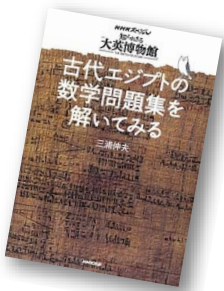
私を温かく迎えていただきありがとうございます。ここで皆さんと共に活動できることを嬉しく思います。



図書館の
おすすめ本

市立図書館
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで
「市立図書館」を検索



『古代エジプトの数学問題集を解いてみる』
三浦伸夫/NHK出版

ピラミッド建設を行なった古代エジプトの数学はどのようなものだったのでしょうか。本書はパピルスに記された紀元前19世紀ころの数学問題集の解説書。難易度は中学数学レベルで食生活や社会制度など古代エジプト社会の記述も楽しい内容です。古代エジプトに思いをはせながらチャレンジしてみませんか？



『サカサあそび オカのカオ』
谷川晃一/童心社

絵本「ウラバン・オコサ」「へんしーん」など子どもたちを惹きつける谷川晃一さんのまたしてもちょっと変わった新作絵本です。

上から読んでも下から読んでも同じ言葉と、上から見ても下から見ても同じではないけど、絵になってる絵。音の響きや不思議な絵、じっくりお楽しみください。

◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どもたちのお気に入りの1冊を紹介します。



志佐町高野免の富永ひなちゃん(6歳)とめいちゃん(4歳)

【お気に入りの本】

『ぼくのえんそく』 穂高順也/さく 岩崎書店

『いつまでもずきでいてくれる?』 マーガレット・P・ブリッジズ/さく 評論社

【お母さんからひとこと】

図書館は私が学生の頃から利用させて頂いています。子どもが生まれてからは絵本を借りたり、ビデオを見に来たりしています。子どもの目線で選べるので毎回「どれにしようかなあ〜」と言いながら子どもたちも楽しそうに選んでいます。そして、選んだ絵本をどんなお話だろう!! と目をキラキラさせながら読んでいます。私も一緒に新しいお話を楽しんでいます。子どもにとって絵本は夢と物語が沢山詰まった宝物だと思います。これからも沢山の絵本に出会って欲しいなあと思います。

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館も大歓迎です!